

## ○ 東京都指定天然記念物（植物）

### 御蔵島御代ヶ池のツゲ 9本

所在地 御蔵島村御代ヶ池

所有者 御蔵島村

御蔵島の南東部にある御代ヶ池は、東側のツブネヶ森と呼ばれる円頂丘溶岩により堰きとめられてできたと考えられる池です。標高542mに位置し、周囲400m、深さ2m、面積約8,250㎡あります。島の豊富な降雨量によって水量が維持された淡水池であり、美しい独特の景観を持っています。

池の、東側の急峻な斜面地に巨樹を数多く含んだツゲの天然林が広がっています。特に幹囲1mを超える巨樹9本は概ね樹齢300年を超える老樹であると推定されます。（最大樹の幹囲は175cm）

ツゲは、山形県を北限として沖縄県、朝鮮半島、中国に分布し、常緑性で、普通高さ1～3m、幹囲は10cm程度の低木です。材は緻密で硬く、狂にくい性質から、印判、将棋駒、そろばん玉などに賞用されます。

御蔵島にとってツゲは、江戸時代より貴重な収入源であり、元禄年間には盛んに切り出されるよ



御蔵島御代ヶ池のツゲ

うになりました。三宅島が御蔵島を支配した元禄から享保の40年間には、御蔵島の山半分から下のツゲは伐り尽くしてしまったと伝えられています。享保14年に三宅島の支配を離れ御蔵島独自の廻船が開始されると、山半分から上の神山のツゲを伐るに当たっては、島の神主の指導の下、入山の時期や伐採の数量にも強い規制をし、守られてきました。

こうして江戸時代中期より御蔵島の経済を支えてきた天然樹のツゲで、幹囲1mを超える巨樹が群生するのは全国でも稀なもので、東京都の自然を記念するものとして重要です。

## 2 面積を追加して指定するもの

### ○ 東京都指定史跡 昭和46年3月29日指定

#### 町田市田端環状積石遺構

所有者 町田市（管理者 町田市教育委員会）

指定面積

(1)昭和46年3月26日指定面積 281㎡

(2)追加指定面積 1,608㎡

総合計 1,889㎡

田端環状積石遺構は、縄文時代後期から晩期の川原石を帯状に積上げた環状積石帯と土壙墓などからなる祭祀遺構で、今回関連する遺構が広がる南西側を追加指定しました。



町田市田端環状積石遺構

## 3 指定を解除するもの

### ○ 東京都指定天然記念物（植物） 昭和49年8月1日指定

#### 出雲神社のツバキ

所在地 あきる野市淵上310 出雲神社内

所有者 あきる野市淵上310 宗教法人出雲神社  
幹部の腐朽による枯死。